

金融・11/21・島津製作所・3段1割・日経広告

SHIMADZU

島津製作所は、4つの基盤事業をベースとして新たな成長分野で事業展開を加速しています。

環境分野	バイオ分野	半導体-FPD分野
戦略事業		
基盤事業		
計測機器分野	医用機器分野	航空機器分野
産業機器分野		

What's New

- 12月7-9日、幕張メッセで開催される半導体産業の展示会「セミコンジャン」に出展します。

株式会社 島津製作所 証券コード 7701

資本金 26,648,899,574円
発行済株式総数 296,070,227株

本社 〒604-8511 京都市中京区西ノ京森原町1
お問合せ先【経営戦略室 IRグループ】
TEL 075-823-1914 ir_info@group.shimadzu.co.jp
www.shimadzu.co.jp

21 中間連結決算発表

島津の中間期業績はどうか？

島津製作所は11月15日、2005年9月中旬期(2005年4月1日-2005年9月30日)決算を発表しました。連結経営成績は売上高1,148億円(前中間期比3.4%増)、営業利益90億円(同5.5%減)、経常利益82億円(同7.1%増)、中間純利益51億円(同13.7%減)となりました。当中間期は計測機器と医用機器が海外を中心に売上を拡大し、航空・産業機器が国内で堅調に推移しました。

2005年9月中旬期の連結経営成績 (2005年4月1日-9月30日)	売上高 (百万円) (%)	営業利益 (百万円) (%)	経常利益 (百万円) (%)	中間(当期)純利益 (百万円) (%)	1株当たり中間(当期)純利益 (円)
2004年9月中旬期	111,070 10.5	9,553 58.7	7,625 117.4	5,901 282.0	22.13
2005年9月中旬期	114,839 3.4	9,024 -5.5	8,164 7.1	5,093 -13.7	18.80
2006年3月期通期(予想)	237,000 1.5	21,000 2.0	18,000 3.8	10,500 -11.8	34.81

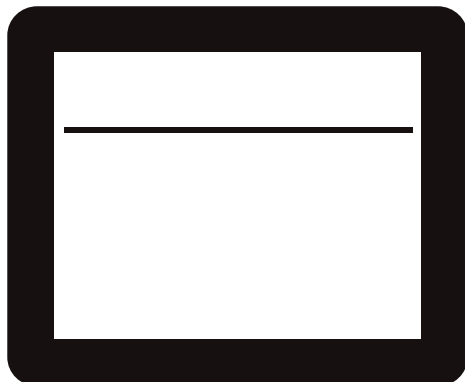
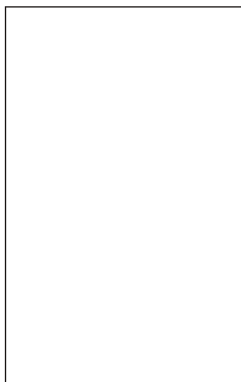
※パーセント表示は対前年同期比増減率

売上高と経常利益は、中間期業績の過去最高を更新しました。

当中間期の連結経営成績は、過去最高の業績となった前中間期に比べて、売上高が3.4%増の1,148億円、経常利益が7.1%増の82億円となりました。営業利益は5.5%減の90億円、中間純利益は13.7%減の51億円でした。売上高は、全事業セグメントで増加しましたが、営業利益は、一時的なプロダクトミックスの変動により採算性の高い製品が減少したなどが影響して減益となりました。経常利益は、為替差損益の改善や有利子負債削減による支払い利息の減少などで増益でした。中間純利益については、前期が税効果会計で税負担率が低かったことから減益となりました。9月末に転換社債の株式への転換があり、1株当たり中間純利益は18.80円でした。

計測機器および医用機器は海外で順調に実績を伸ばしました。

計測機器は、国内では改正水道法関連の需要が減少したものの、欧州やアジア、中近東など海外で順調に拡大し、売上高は前中間期比2.8%増の637億円となりました。医用機器は、FPD(フラットパネルディスプレイ)搭載X線検査システムが国内外で増加した反面、国内でPET(陽電子放射断層撮影)装置が新製品投入の遅れにより減少し、同2.7%増の211億円でした。航空・産業機器は、航空機器が増収となり、産業機器が中国など海外で減少したのに対して国内では堅調に推移し、同3.8%増の271億円となりました。下半期は、原油・素材価格の上昇などの影響が懸念される状況を慎重に見ていますが、通期業績は、期初計画通りに増収増益を見込んでいます。



#01

長期経営構想

三菱ウェルファーマは2002年5月に長期経営構想をまとめました。新社発足から10年後の具体的な姿として「国際創薬企業」への飛躍をめざします。「創薬企業」とは従来の製造業に軸足を置いた「製薬企業」とは異なり、知識・技術を最重要とする新しい医薬品企業の先進国モデルです。世界で存在感のある立場を占め、患者さん、医療関係者はもとより株主、投資家からも高い支持を受ける企業像の実現をめざします。

三菱ウェルファーマは「国際創薬企業」を10年後の具体像に掲げて実現をめざします。

私たちは世界標準で企業価値の向上に取り組んでいます。当社がめざす「国際創薬企業」のあるべき姿は、まず質より量研究開発投資自由化によるクリティカルマスの実現です。研究開発投資については第1段階として生き残りに必要な1,000億円、最終段階として勝ち残りに必要な2,000億円を目指しています。その確保のためには、世界中で優秀な新薬候補的を生み出すとともに、世界の市場に高品質な製品を低コストで、しかも定量的供給する力を確立しなければなりません。販売力、情報発信力、マネジメント力についても世界トップの水準が求められます。企業価値の向上に向けて「産研と産中」による事業再構築をさらに推進し、海外市場等事業領域である新薬事業に注力する経営資源のすべてを集中します。経営環境改善や収益・財務改善も進められます。さらには「後継の三菱ウェルファーマ」としてのイメージとブランドの確立、適合力や活力にあふれた企業文化・企業風土を創出します。

基本戦略は新薬力の強化と国際事業基盤の確立です。「国際創薬企業」実現の基幹戦略としては、まず新薬力の強化のために高期的・事業的創薬に向けた研究開発体制を推進します。グローバルな研究開発体制を構築するとともに、バイアウト販売のためのライセンスと外部資源の活用を図ります。次に国際事業基盤の確立です。自社販売体制の確立を優先し、同時に現地資本の活用によって、欧米市場に参入し、同時にアジアにおける事業展開を促進します。生産および生産技術の再編・強化と品質保証体制の強化のためには、サプライチェーンマネジメントや世界規模での製造生産体制の構築が欠かせません。プロモーション戦略、ライフサイクルマネジメントなどを推進することによって、売り上げを最大に伸ばすような国内営業体制の抜本的刷新を促します。さらに最適な組織、活力を生む人事、委員の最適化を重要なテーマとして積極的に取り組みます。

三菱化学グループとの連携を進めて新薬事業を振興します。当社は新薬事業に経営資源を集中しながら、三菱化学生命科学研究所、ノジーン社をはじめとする三菱化学ヘルスケアグループ各社との連携を深め、創薬力を強化します。特に、ケム創薬関連で最大限のシナジーを追求する考えです。ケム創薬、ケム技術を積極的に活用して創薬ターゲットを創出し、質の高い「創薬候補精」を開発していきます。

News Update
06-6201-1696 (昼間 9時～17時) 4509

- 三菱ウェルファーマ発足1周年
- 高血圧分画製薬事業のリーディングカンパニー（株）ベネシス 10月1日創設
- 「スベリリアティケミカルズ」分野の独自の創発型企業（株）エービーアイ コーポレーション 10月1日創設

創薬力

<http://www.m-pharma.co.jp>

2002年10月3日・日経金融新聞全3段

#02

株式会社ベネシス発足

三菱ウェルファーマは10月1日、生物製剤製造部門を分社化して「株式会社ベネシス」を新たに設立しました。国内の血管薬白事業のリーディングカンパニーである当社は、血管分画製剤生産機能の統合と管理体制の強化のために、今年4月に生産・技術本部を再編して生物製剤製造部門を新設しましたが、今回の分社化は安全な血管分画製剤の安定供給をさらに推進するものです。

三菱ウェルファーマは生物製剤製造部門を分社化し、新会社ベネシスを設立しました。

分社化により経営管理体制を明確化しました。分社方式は、三菱ウェルファーマを分社会社とし、ベネシスを単独会社とする新設分社で、ベネシスが分社により発行する株式の総額を当社に割り当てる物納分社です。生物製剤製造部門を本体内から分離することによって同部門の主体性と責任体制を明確にし、血管分画製剤事業について安全性をいっそう重視した経営を展開することが必要と考え、この分社方式を採用しました。ベネシスが分社に際して発行した株式は普通株式60,000株で、その全株式を当社に割り当てました。単独会社は分社創日に当社の生物製剤製造部門で行われていた営業に関する資産、負債および契約上の権利などを当社から承継しました。

2002年3月31日現在の資産額に基づく、分社による承継前後の両社の資産などの内容は図1のとおりです。ベネシスは資本金30億円、従業員数は約480人で、すべて当社からの出向者です。設立後2決算期の業績予想は図2のとおりです。

News Update
06-6201-1696 (昼間 9時～17時) 4509

- 三菱ウェルファーマ発足1周年
- 高コレステロール血症治療剤「コレステラ」に10月6日 新薬追加品 新発売
- 「スベリリアティケミカルズ」分野の独自の創発型企業（株）エービーアイ コーポレーション 10月1日創設

創薬力

<http://www.m-pharma.co.jp>

2002年10月10日・日経金融新聞全3段

#03

株式会社エービーアイコーポレーション発足

10月1日、三菱化学、三菱ウェルファーマおよび吉富ファインケミカルは、三菱化学の有機化学品カンパニーが所管する医薬原体（API）事業およびファインケミカル事業の一部を会社分割の手法により、吉富ファインケミカルに承継させました。薬事法改正後のビジネスチャンス積極的に取り込むのが狙いです。吉富ファインケミカルは同時に社名を「エービーアイ コーポレーション」に変更しました。

三菱化学のAPI事業を吉富ファインケミカルに統合、より効率的な体制を確立します。

両社ともAPI事業に高い技術力を持っています。三菱化学のAPI事業は、医薬品の中間体プロセス開発から原料供給まで幅広いニーズに対応し、基礎技術と改良技術を提供できる優れた研究開発力を持っています。ファインケミカル事業では長年培った有機合成技術を基盤に、原料原料など各種特殊中間体を広範なマーケットに展開中です。一方、三菱ウェルファーマの全額出資子会社である吉富ファインケミカルは、吉富製薬（現三菱ウェルファーマ）の化成系事業と医薬原体製造部門を引き継ぎ、1996年に設立しました。アズステック薬品の中核事業である医薬原体製造、医薬原体製造、医薬原体などの「スベリリアティケミカルズ」分野を得意とし、最近では最新鋭の医薬原体マルチプラントや連続製造設備を建設するなど、高度なGMP対応力、優れた工業化技術力を備えています。

より効率的かつ効率的な事業体制を構築します。医薬品業界を取り巻く環境は厳しさを増しています。加えて薬事法の改正により、製造承認制度が製造販売承認制度に変更されるようになっています。三菱化学、三菱ウェルファーマ、吉富ファインケミカル各社は、薬事法改正後のビジネスチャンス積極的に取り込むために、三菱化学、吉富ファインケミカル両社と共同して事業統合、ファインケミカル事業を統合することが必要であると判断しました。会社分割方式は、三菱化学を分社会社として吉富ファインケミカルを単独会社とする分社型吸収分社です。両社はそれぞれの医薬原体、ファインケミカル事業について、研究開発力と技術サービスの強化、製造・物流コストの削減などを進め、より効率的な体制を構築するために事業を統合し、その効果を最大限に発揮できるように、この分社方式を採用しました。

新会社は応答性ニーズに応える開発型企業です。エービーアイ コーポレーションは両社が持つ豊富な経験と高い技術開発力および市場アクセスをベースに、医薬分野、ニッチファイン分野を中核ターゲットとして世界トップクラスの企業をめざします。両社の事業目標としては統合後3年目の2006年度に売上500億円、売上高営業利益率10%を達成する考えです。

News Update
06-6201-1696 (昼間 9時～17時) 4509

- 三菱ウェルファーマ発足1周年
- 高血圧分画製薬事業のリーディングカンパニー（株）ベネシス 10月1日創設
- 高コレステロール血症治療剤「コレステラ」に10月6日 新薬追加品 新発売

創薬力

<http://www.m-pharma.co.jp>

2002年10月17日・日経金融新聞全3段

advertising

SHINOSKE INC.

#04

3カ年中期経営計画では、事業および経営効果改善策を、早期に合致効果を見直し実施。

創業力

http://www.m-pharma.jp

2002年10月24日・日経金融新聞全3段

#05

創業力

http://www.m-pharma.jp

2002年10月31日・日経金融新聞全3段

#16

創業力

http://www.m-pharma.jp

2003年1月23日・日経金融新聞全3段

#06

創業力

http://www.m-pharma.jp

2002年11月7日・日経金融新聞全3段

#07

創業力

http://www.m-pharma.jp

2002年11月14日・日経金融新聞全3段

#18

創業力

http://www.m-pharma.jp

2003年2月6日・日経金融新聞全3段

#08

創業力

http://www.m-pharma.jp

2002年11月21日・日経金融新聞全3段

#09

創業力

http://www.m-pharma.jp

2002年11月28日・日経金融新聞全3段

#20

創業力

http://www.m-pharma.jp

2003年2月20日・日経金融新聞全3段

#10

創業力

http://www.m-pharma.jp

2002年12月5日・日経金融新聞全3段

#11

創業力

http://www.m-pharma.jp

2002年12月12日・日経金融新聞全3段

#22

創業力

http://www.m-pharma.jp

2003年3月6日・日経金融新聞全3段

#12

創業力

http://www.m-pharma.jp

2002年12月19日・日経金融新聞全3段

#13

創業力

http://www.m-pharma.jp

2002年12月26日・日経金融新聞全3段

#24

創業力

http://www.m-pharma.jp

2003年3月20日・日経金融新聞全3段

#14

創業力

http://www.m-pharma.jp

2003年1月9日・日経金融新聞全3段

#15

創業力

http://www.m-pharma.jp

2003年1月16日・日経金融新聞全3段

#26

創業力

http://www.m-pharma.jp

2003年4月3日・日経金融新聞全3段

FUJIO FOOD SYSTEM
大塚建設株式会社ヘルスケア事業本部
統括コード 2752

まいどおきに食堂・神楽食堂 華歌物産 かつほう亭
火の音水の会・おのづか 伊豆のホームステイYVBBB
大塚建設株式会社ヘルスケア事業本部ヘルスケア部
いもとうき 南宮屋 かつほう亭 華歌物産
華歌物産 華歌物産 華歌物産 カフェ・チャンピオン 華歌物産
華歌物産 華歌物産 アジアパスタイス 華歌物産 華歌物産
KINOSHITA MIND 華歌物産

運営144店舗+フランチャイズ108店舗
日本一の食べもん家をめざして全国展開
株式会社フジオフードシステム

●設立1999年 ●資本金3億2000万円
●店舗数144店舗7400万円 (2003年12月期)
●店舗売上40億5000万円 (2003年12月期)

本社
〒111-0055 東京都台東区東上野1-10-6 TEL: 03-4833-0381
東京支社
〒111-0055 東京都台東区東上野1-10-6 TEL: 03-4833-0381
www.fujio-food.com

フジオフードシステムは 現在28業態、252店舗の 飲食店を全国で展開しています。

フジオフードシステムは、人の温もりをコンセプトに外食産業の新展開を次々に開拓し、直営店経営とFC(フランチャイズチェーン)の本部署を展開する企業です。飲食の「プロ」としてさまざまな業態を手がけてきた25年の実績をもとに、多店舗化を有利かつスピーディに実現する多業態の事業構造を生かし、直営店で培ったノウハウによるFCシステムを推進。その結果、設立から4年余りで28業態、直営144店舗とFC108店舗に規模を拡大してきました。主力ブランドの「まいどおきに食堂」「神楽食堂 華歌物産」に続いて「かつほう亭」「火の音水の会」などの新ブランドも急成長を続けています。外食産業の中でも注目を集めるフジオフードシステムの原点にあるのは「おいしいものは健康によく、安い以上等で体にやさしい」という藤原正弘社長の信念です。お客さまに喜んでいただくと同時に、そこで働くすべての仲間が幸福を共有できるような組織をめざして、全国展開をさらに加速化していきます。ご注目ください。

2004年1月27日・日経金融新聞全3段

FUJIO FOOD SYSTEM
大塚建設株式会社ヘルスケア事業本部
統括コード 2752

まいどおきに食堂・神楽食堂 華歌物産 かつほう亭
火の音水の会・おのづか 伊豆のホームステイYVBBB
大塚建設株式会社ヘルスケア事業本部ヘルスケア部
いもとうき 南宮屋 かつほう亭 華歌物産
華歌物産 華歌物産 華歌物産 カフェ・チャンピオン 華歌物産
華歌物産 華歌物産 アジアパスタイス 華歌物産 華歌物産
KINOSHITA MIND 華歌物産

運営144店舗+フランチャイズ108店舗
日本一の食べもん家をめざして全国展開
株式会社フジオフードシステム

●設立1999年 ●資本金3億2000万円
●店舗数144店舗7400万円 (2003年12月期)
●店舗売上40億5000万円 (2003年12月期)

本社
〒111-0055 東京都台東区東上野1-10-6 TEL: 03-4833-0381
東京支社
〒111-0055 東京都台東区東上野1-10-6 TEL: 03-4833-0381
www.fujio-food.com

フジオフードシステムは 健康・美味・幸福をテーマに 飲食業を通じて社会に貢献します。

フジオフードシステムは、外食産業を通じて健康に役立つ美味を提供し、お客さまはもちろんすべての従業員の幸福、そして地域の発展に貢献することを使命と考えています。ファッション性やアメーザメント性を重視した飲食店ではなく、人の温もりを感じる火炎の食文化にこだわり、時代に合わせた新展開を開発し独自のFCシステムによる店舗戦略を推進する理由は、そこにあります。健康の提供とは、栄養的にバランスのとれた安全な商品を提供するだけでなく、健康的なライフスタイルを提案することであり、社会的な健康すなわち雇用の創出や経済の活性化に役立つことも意味します。また美味とは味、雰囲気、サービスの3つの要素を掛け合わせたもので、店舗づくりの工夫と従業員の笑顔がなければ、どんなに美味しい商品も価値が生まれません。それらを実現するためのキーワードが幸福なのです。フジオフードシステムは、この理念を組織全体で共有することで、人も地域も元気になれるような事業を展開しています。

2004年2月12日・日経金融新聞全3段

FUJIO FOOD SYSTEM
大塚建設株式会社ヘルスケア事業本部
統括コード 2752

まいどおきに食堂・神楽食堂 華歌物産 かつほう亭
火の音水の会・おのづか 伊豆のホームステイYVBBB
大塚建設株式会社ヘルスケア事業本部ヘルスケア部
いもとうき 南宮屋 かつほう亭 華歌物産
華歌物産 華歌物産 華歌物産 カフェ・チャンピオン 華歌物産
華歌物産 華歌物産 アジアパスタイス 華歌物産 華歌物産
KINOSHITA MIND 華歌物産

運営144店舗+フランチャイズ108店舗
日本一の食べもん家をめざして全国展開
株式会社フジオフードシステム

●設立1999年 ●資本金3億2000万円
●店舗数144店舗7400万円 (2003年12月期)
●店舗売上40億5000万円 (2003年12月期)

本社
〒111-0055 東京都台東区東上野1-10-6 TEL: 03-4833-0381
東京支社
〒111-0055 東京都台東区東上野1-10-6 TEL: 03-4833-0381
www.fujio-food.com

フジオフードシステムは 中高年の雇用機会を増やし 働く女性をサポートしています。

フジオフードシステムは、人材活用戦略として中高年、とくに40代以上の女性を積極的に採用しています。外食産業ではFC展開によるナショナルチェーン化が雇用創出に役立つと評価されてきましたが、重要なのは雇用の創出となる年齢層です。20代の従業員を求める飲食店が多い中で、それらと同じような業態では社会的に意義のある雇用効果は生まれません。意欲ある女性が活躍に繋がる環境をつくってこそ、外食産業としての存在価値が高まると考えています。この方針に基づいて開発した新業態が「手作り居酒屋 かつほう亭」です。40代以上の女性スタッフならではの温かな雰囲気と手作りのおいさをコンセプトに、いま全国でFC展開を推進しています。もちろん主力ブランドの「まいどおきに食堂」を担って働くのも約88%が40歳以上の女性です。フジオフードシステムでは、すべてのスタッフをパートナーと呼び、持てる「パワー」を惜しみなく発揮できるような店舗づくりと事業体制、人材育成などに力を注いでいます。

2004年3月10日・日経金融新聞全3段

フジオフードシステムは現在28業態、252店舗の飲食店を全国で展開しています。

フジオフードシステムは、全国展開を目的として、2003年12月期決算を完了いたしました。この決算は、売上高が前年同期比で10.1%増の1,080億8,000万円を達成いたしました。これは、業態の多岐にわたる展開と、店舗の全国展開による効果の表れと見られます。

また、この決算は、営業利益が前年同期比で15.2%増の1,080億8,000万円を達成いたしました。これは、業態の多岐にわたる展開と、店舗の全国展開による効果の表れと見られます。

フジオフードシステムは、今後も業態の多岐にわたる展開と、店舗の全国展開を推進してまいります。

2004年1月27日・日経金融新聞全3段

フジオフードシステムは健康・美味・幸福をテーマに飲食業を通じて社会に貢献します。

フジオフードシステムは、健康・美味・幸福をテーマに、飲食業を通じて社会に貢献することを目指しています。このためには、高品質な食材の調達と、最新の調理設備の導入が不可欠です。

また、従業員の健康と幸福を促進するためには、適切な労働環境の整備と、研修機会の提供が重要です。フジオフードシステムは、これらの取り組みを通じて、社会に貢献してまいります。

2004年2月12日・日経金融新聞全3段

フジオフードシステムは中高年の雇用機会を増やし働く女性をサポートしています。

フジオフードシステムは、中高年の雇用機会を増やし、働く女性をサポートすることを目的としています。このためには、柔軟な働き方の提供と、研修機会の提供が重要です。

また、働く女性の健康と幸福を促進するためには、適切な労働環境の整備と、福利厚生の充実が不可欠です。フジオフードシステムは、これらの取り組みを通じて、中高年の雇用機会を増やし、働く女性をサポートしてまいります。

2004年3月10日・日経金融新聞全3段

フジオフードシステムは2003年12月期の決算で連結売上108億円を達成しました。

項目	2003年12月期	2002年12月期	増減
連結売上高	1,080.8億円	978.0億円	102.8億円(+10.5%)
営業利益	1,080.8億円	978.0億円	102.8億円(+10.5%)
経常利益	1,080.8億円	978.0億円	102.8億円(+10.5%)
純利益	1,080.8億円	978.0億円	102.8億円(+10.5%)

2004年4月2日・日経金融新聞全3段

フジオフードシステムはエリアフランチャイザー制で新規出店150店舗に挑戦します。

フジオフードシステムは、エリアフランチャイザー制を導入し、新規出店150店舗に挑戦することを発表しました。この取り組みは、地域密着型の展開を促進し、顧客のニーズに応じたサービスを提供することを目的としています。

また、フランチャイザーの健康と幸福を促進するためには、適切な労働環境の整備と、研修機会の提供が重要です。フジオフードシステムは、これらの取り組みを通じて、新規出店150店舗に挑戦してまいります。

2004年5月28日・日経金融新聞全3段

フジオフードシステムは都市型に加えて郊外型の立地・出店戦略を展開しています。

フジオフードシステムは、都市型に加えて郊外型の立地・出店戦略を展開することを発表しました。この取り組みは、郊外型の立地・出店戦略を促進し、顧客のニーズに応じたサービスを提供することを目的としています。

また、郊外型の立地・出店戦略を促進するためには、適切な労働環境の整備と、研修機会の提供が重要です。フジオフードシステムは、これらの取り組みを通じて、郊外型の立地・出店戦略を展開してまいります。

2004年6月18日・日経金融新聞全3段

フジオフードシステムは外食のエキスパートとして今後も業態開発を提案し続けます。

フジオフードシステムは、外食のエキスパートとして、今後も業態開発を提案し続けることを発表しました。この取り組みは、外食業界の発展を促進し、顧客のニーズに応じたサービスを提供することを目的としています。

また、外食業界の発展を促進するためには、適切な労働環境の整備と、研修機会の提供が重要です。フジオフードシステムは、これらの取り組みを通じて、外食のエキスパートとして、今後も業態開発を提案し続けてまいります。

2004年7月23日・日経金融新聞全3段

フジオフードシステムは大和ハウス工業と提携し、約400店の新規出店を加速します。

フジオフードシステムは、大和ハウス工業と提携し、約400店の新規出店を加速することを発表しました。この取り組みは、大和ハウス工業との協力を促進し、顧客のニーズに応じたサービスを提供することを目的としています。

また、大和ハウス工業との協力を促進するためには、適切な労働環境の整備と、研修機会の提供が重要です。フジオフードシステムは、これらの取り組みを通じて、約400店の新規出店を加速してまいります。

2004年8月27日・日経金融新聞全3段

フジオフードシステムは全国で出店を加速化する地区本部企業23社を決定しました。

フジオフードシステムは、全国で出店を加速化する地区本部企業23社を決定することを発表しました。この取り組みは、地区本部企業との協力を促進し、顧客のニーズに応じたサービスを提供することを目的としています。

また、地区本部企業との協力を促進するためには、適切な労働環境の整備と、研修機会の提供が重要です。フジオフードシステムは、これらの取り組みを通じて、全国で出店を加速してまいります。

2004年9月29日・日経金融新聞全3段

フジオフードシステムはいよいよ出店攻勢を強め、売上高123億円を見込んでいます。

フジオフードシステムは、いよいよ出店攻勢を強め、売上高123億円を見込むことを発表しました。この取り組みは、出店攻勢を促進し、顧客のニーズに応じたサービスを提供することを目的としています。

また、出店攻勢を促進するためには、適切な労働環境の整備と、研修機会の提供が重要です。フジオフードシステムは、これらの取り組みを通じて、いよいよ出店攻勢を強め、売上高123億円を見込んでまいります。

2004年10月27日・日経金融新聞全3段